令和2年4月16日 風力部会資料

(仮称)芝山·大黒山風力発電事業

環境影響評価方法書についての 意見の概要と事業者の見解

令和2年1月

日立サステナブルエナジー株式会社

目 次

第 1 章	草環境	意影響評価方法書の公告及び縦覧	1
1.	環境	影響評価方法書の公告及び縦覧	1
	(1)	公告の日	1
	(2)	公告の方法	1
	(3)	縦覧場所	2
	(4)	縦覧期間	2
	(5)	縦覧者数	2
2.	環境	影響評価方法書についての説明会の開催	3
	(1)	公告の日及び公告方法	3
	(2)	開催日時、開催場所及び来場者数	3
3.	環境	影響評価方法書についての意見の把握	4
	(1)	意見書の提出期間	4
	(2)	意見書の提出方法	4
	(3)	意見書の提出状況	4
第 2 章	章環境	武影響評価方法書の環境保全の見地からの提出意見の概要と事業者の見解	5
1.	環境	の保全の見地からの意見	5
	(1)	動物・植物・生態系	5
	(2)	その他1	3

第1章 環境影響評価方法書の公告及び縦覧

1. 環境影響評価方法書の公告及び縦覧

「環境影響評価法」第7条の規定に基づき、当社は環境の保全の見地からの意見を求めるため、方法書を作成した旨及びその他事項を公告し、方法書及び要約書を公告の日から起算して約1月間縦覧に供した。

(1) 公告の日

令和元年 11 月 12 日 (火)

(2) 公告の方法

- ① 日刊新聞紙による公告(別紙1参照)
 - 下記日刊紙に「公告」を掲載した。
 - ・令和元年11月12日(火)付福島民友新聞社、福島民報社の全県版
- ② 地方公共団体の公報、広報誌によるお知らせ

下記公報、広報誌に「お知らせ」を掲載した。

- ・古殿町行政だより第951号(令和元年11月1日発行)(別紙2-1参照)
- ・広報ひらた 12 月号(令和元年 11 月 10 日発行) (別紙 2-2 参照)
- ③ インターネットによるお知らせ

令和元年 11 月 12 日 (火) 又はそれ以降から、下記のウェブサイトに「お知らせ」を掲載した。

・福島県のウェブサイト (別紙 3-1 参照)

https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/eia-zisshianken/eia-anken-law-31.html

・いわき市 ウェブサイト (別紙 3-2 参照)

http://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1557798270087/index.html

・日立サステナブルエナジー ホームページ (別紙 3-3 参照)

http://www.hitachi-sustainable-energy.co.jp/

(3) 縦覧場所

関係自治体庁舎の5箇所で縦覧を行った。また、インターネットの利用により縦覧を行った。 (別紙4参照)

- ① 関係自治体庁舎での縦覧
 - ·福島県庁生活環境部環境共生課(福島県福島市杉妻町2番16号)
 - ・いわき市役所1階(福島県いわき市平字梅本21番地)
 - ・いわき市三和支所(福島県いわき市三和町下市菅竹ノ内114番地の1)
 - ・古殿町役場産業振興課(福島県石川郡古殿町大字松川字新桑原31)
 - ·平田村役場住民課(福島県石川郡平田村大字永田字切田 116番)
- ② インターネットの利用による縦覧
 - ・日立サステナブルエナジー ホームページ

http://www.hitachi-sustainable-energy.co.jp/

(4) 縦覧期間

・縦覧期間: 令和元年 11 月 12 日 (火) から令和元年 12 月 11 日 (水) まで (土・日曜日、祝日を除く。)

· 縦覧時間: 午前8時30分~午後5時15分

・電子縦覧:令和元年11月12日(火)午前0時から令和元年11月11日(水)午後24時まで

なお、インターネットの利用による縦覧については、電子縦覧の期間、常時アクセス可能 な状態とした。

(5) 縦覧者数

縦覧者数(記名者数)は5名であった。

(内訳)	福島県庁生活環境部環境共生課	3名
	いわき市役所 1 階	2名
	いわき市三和支所	0名
	古殿町役場産業振興課	0名
	平田村役場住民課	0名

2. 環境影響評価方法書についての説明会の開催

「環境影響評価法」第7条の規定に基づき、方法書の記載事項を周知するための説明会を開催した。

(1) 公告の日及び公告方法

説明会の開催公告は、環境影響評価方法書の縦覧等に関する公告と同時に行った。 (別紙1、別紙2、別紙3参照)

(2) 開催日時、開催場所及び来場者数

説明会の開催日時、開催場所及び来場者数は以下のとおりである。

・平田村上北方集会所(福島県石川郡平田村北方字左鍬内 144-2)

開催日時:11月16日(土) 18:30~20:00

来場者数:5名

・いわき市三和公民館(福島県いわき市三和町下市萱字竹ノ内114-1)

開催日時:11月19日(火) 18:30~20:00

来場者数:11名

・いわき市上三坂公民館(福島県いわき市三和町上三坂字山神前111)

開催日時:11月26日(火) 19:00~20:30

来場者数:15名

・古殿町大久田集会センター(福島県石川郡古殿町大字大久田石神 52)

開催日時:11月29日(金) 19:00~20:30

来場者数:3名

・古殿町上山上ふれあいセンター(福島県石川郡古殿町山上竹貫田 200)

開催日時:11月30日(土) 19:00~20:30

来場者数:11名

3. 環境影響評価方法書についての意見の把握

「環境影響評価法」第8条の規定に基づき、環境の保全の見地から意見を有する者の意見の 提出を受け付けた。

(1) 意見書の提出期間

令和元年 11 月 12 日 (火) から令和元年 12 月 25 日 (水) まで (郵送の受付は当日消印まで有効とした。)

(2) 意見書の提出方法

環境保全の見地からの意見について、以下の方法により受け付けた。(別紙5)

- ① 縦覧場所に設置した意見書箱への投函
- ② 日立サステナブルエナジー株式会社への書面の郵送、FAX 及び電子メール

(3) 意見書の提出状況

合計2名の方から、2通の意見書が提出された。

第2章 環境影響評価方法書の環境保全の見地からの提出意見の概要と事業者の見解

「環境影響評価法」第8条の規定に基づく環境影響評価方法書について、環境の保全の見地から提出された意見は2件であった。方法書についての意見の概要並びにこれに対する事業者の見解は、次のとおりである。

1. 環境の保全の見地からの意見

(1) 動物・植物・生態系

環境影響評価方法書について提出された意見の概要と事業者の見解(意見書1)(1/7)

神奈川県川崎市在住 T 氏

		种东川东川响川在压工人
No.	質問・指摘事項等	事業者の見解
1	■コウモリ類の保全措置として「稼動制限」を実施して欲しい	まずは今後の現地調査により当
	国内の風力発電施設において、バットストライクが大量に発生している。	該地域のコウモリ類の生息状況の
	例えば、貴社の事業地である「横浜町雲雀平風力発電事業」では、わずか	把握に努めます。
	1か月の聞にバットストライクが8個体(ヒナコウモリ4個体、アブラコ	その結果に基づき、重大な環境
	ウモリ2個体、種不明2個体)も確認されている(横浜町雲雀平風力発電	影響が及ぶと予測された場合に
	事業供用に係る事後調査報告書 令和元年12月)。バットストライクは不	は、ご指摘事項もふまえ専門家に
	確実性を伴う事象ではなく、確実に生じる影響と捉えるべきである。	助言を頂きつつ、コウモリ類に対
	国内では、すでに多くの風力発電事業者が、コウモリ類の保全措置として	して負荷の少ない保全措置につい
	フェザリング(風力発電機のブレードを風と並行にして回転を止めるこ	て検討いたします。
	と) やカットイン風速 (発電を開始する風速) を上げるなどの稼働制限を	
	行うことを表明した。	
	本事業においても「カットイン風速の値を上げること及びフェザリング」	
	という環境保全措置を「コウモリを殺す前から」実施していただきたい。	
	これについて事業者の見解及びその根拠を丁寧に述べよ。	
2	■コウモリの保全措置(低減措置)は「カットイン風速の値を上げること	環境保全措置については、今後
	及びフェザリング」が現実的	の現地調査により得られたコウモ
	「コウモリの活動期間中にカットイン風速 (発電を開始する風速) の値を	リ類の出現状況等を基に、専門家
	上げること及び低風速時にフェザリング(風力発電機のブレードを風に対	等の助言もふまえながら検討いた
	して並行にし回転を止めること)」がバットストライクを低減できる、「科	します。
	学的に立証された保全措置※」である。よって、必ず実施して頂きたい。	また、今後も新たな知見の収集
	これについて、事業者が実施しない理由を述べよ。	にも努め、取り得る環境保全措置
	※ Effectiveness of Changing Wind Turbine Cut−in Speed to Reduce Bat	について検討いたします。
	Fatalities at Wind Facilities Final Report, Edward B. Arnett and	
	Michael Schirmacher.2010	
3	■環境保全措置は「コウモリを殺す前から実施してほしい」	今後実施する現地調査に基づき、
	本事業者である「日立サステナブルエナジー株式会社」及び委託先の「建	重大な環境影響がおよぶと予測さ
	設環境研究所」は「環境影響を可能な限り回避・低減すべく環境保全措置	れた場合には、専門家等の助言も
	を実施する」つもりがあるのだろうか?上記のコウモリの保全措置(「力	ふまえながら、環境保全措置を検
	<u>ットイン</u> 風速の値を上げること及び低風速時のフェザリング」 <u>)</u> について	討いたします。
	は、「事業者が実施可能」かつ「最新の知見に基づいた」コウモリ類への	
	環境保全措置である。よって「コウモリを殺す前」、すなわち「事後調査	
	の前から」実施して頂きたい。	

No.	質問・指摘事項等	事業者の見解
4	員同・1月間争復等 ■「環境保全措置」の定義について	環境保全措置とは、「平成 10 年
	事業者らは環境アセスメントにおける「環境保全措置」とは何か、理解しているか。「環境保全措置」の定義及び実施基準を述べよ。	通商産業省令第54号」第28条第1項の記載より、「環境影響をできる限り回避し、又は低減すること、必要に応じ損なわれる環境の有する価値を代償すること及び基準以上で行う環境の保全のための措置」と理解しています。また、環境保全措置は、環境影響がないと判断される場合以外に検討いたします。
5	■環境保全措置の実施時期について	今後実施する現地調査に基づき、
	上記について事業者は、「国内におけるコウモリの保全事例数が少ないので、(カットイン風速の値を上げる)保全措置は実施しない(事後調査の後まで先延ばしにする)」といった回答をするかもしれないが、すでに保全措置を行う先進的事業者もいる。環境保全措置は安全側にとるべきである。	重大な環境影響が及ぶと予測された場合には、専門家等の助言もふまえながら、環境保全措置を検討いたします。
	保全措置は「コウモリを殺すまで」後回しにせず、「コウモリを殺す前」 から実施することが重要であると思うが、これについて、事業者の見解と その理由を述べよ。	
6	■「事後調査」の定義について 事業者らは環境アセスメントにおける「事後調査」とは何か、理解しているか。「事後調査」の定義及び実施基準を述べよ。	事後部等 54 号」象事 10 条 に 公 第 31 業 6 名 5 4 号」象事 10 条 に 6 名 5 4 号」。
7	■「事後調査」の定義について2 念のため確認しておく。発電所アセス省令によれば、「事後調査」は「環境保全措置」ではないが、事業者らは理解しているか。	事後調査とは、「平成10年通商 産業省令第54号」第31条第1項 の記載より、「対象事業に係る工 事の実施中及び供用開始後の環境 の状況を把握するための調査」と
		理解しています。

■ 「予測の不確実性、を機動に係る情報を実施しないのは、発電所でセス 会合に反する行為で「不適切」 国内の規入整理機能において、バットストライクが多数生じ、コウモリ 現 悪影響が生じている。しか、旧内4の風発事業者の中に「予測に不確実性を治性っこと」を根拠に、適切な保全措置を実施し合いので、表電所でセス 「影響が振見される。「予測に不確実性を伴う」としても、それは「保全措置を検討しないでは、まえながら、素塊保全措置を検討している。しか、日内4の風発事業者の中に「予測に不確実性を持っ」としても、それは「保全措置を検討しないです。」 「不需等が極めて小さい」と判断される以外は環境保全措置を検討すること、になっているからだ。 名令に反する行為で「不適切」 2 国内の現力発電機施定において、バットストライクが多数生じ、コウモリ 類か一般影響が生じている。」かし国内の風発事業者の中に「影響の程度と検索した」がします。 「影響をかとしている。」かし国内の風発事業者の中に「影響の程度と検索した」を指置と表述ってきる数」が確実に予測できない」ととを根拠に、適切な保全措置を実施しないのより、中で、東線保全措置を検討してする数)が確実に予測できない」とを根拠に、適切な保全措置を実施したします。 「最后には、専門家等の助言れる表えながら、表現保全措置を検討してする数)が確実に予測できない」とを根拠に、適切な保全措置を実施したします。 「最后には、専門家等の方言も含まえながら、対理保全者を対している」となり、アセス省合による「環境保全措置を検討したします。」 「記述者にする」とは、対理保全者置を検討している。」とは、中で、中で、中で、中で、中で、中で、中で、中で、中で、中で、中で、中で、中で、	No.	質問・指摘事項等	事業者の見解
第一個語」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「低減」の言葉の定義について2 上で、本事業者の知過した「いる。とのいて2 「影響の回避」と「後減」についての必要をがべよ。 「予測に不能実性を持つ」としても、それは「保全措置を検討しなくてよい」の提供はならない。なぜならアと名合いよれば「影響がなり及び「影響が極めていない」と判断される以外は環境保全措資を検討すること。になっているからだ。 「予測の不確実性」を提供に保力権が、メリカンストライクが多数生む、コウマリ類の不確実性」を提供にならない、メリカンストライクが多数生む、コウマリ類の不確実性」を提供にないて、メリトストライクが多数生む、コウマリ類のの影響とないでいる。しかし国内の風発事業者の中に「影響の程度(大きないる、環境保全措置を検討してする数)が確実に「高できない」ことを規則に、適切な保全措置を実施した数別、「自りやり類のの影響とない」とします。 を使めずにといる。しかし国内の風発事業者の中に「影響の程度(大きないる、環境保全措置を検討している。といて、本書を書の場面をはませなが、メリカンは「対しない」」といる場合には、共再定等の助言もな、定性の方別であれば、国内外の風力発電性放射にない。「知りのその影響とはないった」といるに対しない。これを主要ないましましましまり、「おきない」」のよりである。そのための調金を「特値事までに」実施して国産企働するか」である。そのための調金を「特値事までに」実施して国産企働するか」である。そのための調金を「特値事までに」実施して国産ない。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べま。 「「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べま。 「「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べま。 「「ジン等の関係ととしまないはならとと考えています。」 「対してもどうを表別される環境影響についてもときまないましましましまり、「ある程度のパットストライクが「性減」と対してもどもあるの表情にあられる関ののとことを提出であり、「に減」とは、事業に対してもども考えています。 「カントとも表えい」とは影響の同意とも多れの情報を可能のとなども考えています。 またいます。「ライトアップをしない」とは影響の同意、まとも考えいます。 「ライトアップの不使用」について、事業者の見解とその理由を述べ、より、「ラム日ののとことを提出であり、「日報」でなく「を検討、通用ではない、「ライトアップをしない」とは影響のに対してない。「日報」でなく「を検討、「ライトアップをしない」とは影響のでなく「経験」」のところを表はに対しています。 東の実ものとないといません。 最適しています。風力・発電機に表しまいるのと理解しています。風力・発電機に表しまいるのと関係にないません。 現実体をととときない。検に確できる」と思うといった内容の 記述はごとととものと理解しています。 「現実するのと機能していません。 「現実するのとと思ういでは、風力・発音をは、に減するのとといません。 「現実するのとといません。 「現実するのとといません。 「現実するのとといません。 「現実するのとといません。 「現場をは、「は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、		24,4 44,4 2,4	7 217 12 2 2 2 2 1
図内の風力を電機総設において、ペットストライクが多数生じ、コウキリ 要・悪影響が生じている。しかし国内の風景事業者の世に「予測に不確実 主えながら、環境保全措置を検討 いたします。	0		
類 小悪形響が生じている。しかし国内の風発事業者の中に「予測に不確実性を伴うとし、ない。を対しまれる。「子源に不確実性を伴う」としても、それは「保金措置を検討しなくてよい。上でなっているからだ。「保徳が極めて小さい」と、同節される以外は環境保全措置を検討しなくてよった。になっているからだ。「保徳ではのかったが」と、関節される以外は環境保全措置を検討しなって、方ででいるからだ。「保金措置を実施しないのは、発電所でと、「カースを実施する現地勘索に基づき、含金によする特別であれば、バットストライクが多数生じ、コウモリ 類・一般計であれば、で、ボットストライクが多数生じ、コウモリ 類・一般計であれば、で、ボットストライクが多数生じている。しかし国内の風発事業が中じている。しかし国内の風発事業が形成しまれる。企作的で請する動は、同時外の風力整動強強にはいて、バットストライクが多数を生しており、『コウモリ型への影響は接触でいて、ジャトストライクが多数を生しており、『コウモリ型への影響は接触でいるい』とは言い効れない。アモス省合による「環境保全措置を検討しない」。「シース・本海圏では、アモス省合による「環境保全措置を検討しない」。「カースを要性しており、『コウモリ型への影響は接触でいるい」とは、アモス省合による「環境保全措置を検討する」の影響に対している。まって、本事業活の変更も含め、影響を生性が下と別するか、である、そのための調査を「準備事までに」実施して「「大きなの対応を包含とと考えています。」「影響の回避」とは、事業に伴って生じると予測される環境保全がかった分かな観点とは、事業に伴って生じると予測される環境を発するが、であり、影響をもは対している。とも対しないが、「ライトアップをしない」ことを視げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ことを視げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ことを視げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ととと考えています。「ライトアップもなる良鬼類がある鬼魔のがよっとと考えています。」「カーストライクが関係を設定している」とは表現する前とを通っている。ことを視げるかもしれないが、「ライトアップをしない」とは表現する前とを通っている。ことを視げるかもしれないが、「ライトアップをしない」といまり、表別の対しを通りですが、風力発電機近くによりまととまり、ことによりですが、風力を開発できると思う」などと主張すると思うが、「おる程度に対しています。」といった内容の記載はこさいま現しています。「カーストライトアップをしないことによりが、ことによりですが、風力を発達しています。「カーストライトアップをしないことによりが、ことにより、ことにより、ことによりですが、風力に変している。ことを表により、ことによりですが、風力に変している。ことを表により、ことによりですが、風力に変している。ことを表により、ことによりですが、風力に変している。ことを表により、ことによりですが、風力に変している。ことを表により、表別の対している。ことを表により、ことによりでは、まり、ことによりでは、ことには、ことには、ことには、ことには、ことには、ことには、ことには、ことに			
性が伴うこと」を根拠に、適切な保全措置を実施(検討さえ)しない事業者が散見される。 「子龍に不確実性を伴う」としても、それは「保全措置を検討しなくてよい」根拠にはならない。なぜならアセス省令によれば「影響がない」など、になっているからだ。 ■ 「中国の不確実性」を根拠に保全措置を実施しないのは、発電所アセス 名令に及する行為で「不適切」2 国内の風発電施施設において、バットストライクが多数生じ、コウモリ 類、悪災に対するにといっている。しかし国内の風発事業者の中に「影響の程度(第一式ながら、環境保全措置を検討しても多数)が確実に予請できない」ことを根拠に、適切な保全措置を実施 (検討さえ)せて、事業をかいことを根拠に、適切な保全措置を実施 (検討さえ)せて、事業を必いことを根拠に、適切な保全措置を実施 (検討さえ)せて、事業を必いことを根拠に、適切な保全措置を実施 (検討さえ)せて、事業を必いことを根拠に、適切な保全措置を実施 は極めて小さい」とは言い切ない。アセス名令による「環境保全措置を検討 いたします。 (検討さえ)せて、事でに入っている。とって、本事業者の選性は、「死亡するコウモリの敷」を「いかに不確 実性を作わずと引するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響と関連 確認するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響と関連 確認するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を担重 を検討 と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「低減」の言葉の定義についての定義を述べよ。 ■ 「回避」と「低減」の言葉の定義について1 「記書の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に書きない。 「更にない」ではないが、「ライトアップをしない」ことは影響の「回避」接触であり、『伝統』指書ではない、「ライトアップをしない」とを掲げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ことは影響の「回避」指定なり「います。 とも関するとと考えています。 とも関するとと考えています。 ことを掲げるかもしれないが、「ライトアップをしない」とは影響の「回避」指導であり、『伝統』をあり、カイスを発している。 「のところの場等がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ、と、表別の発電機近くこととは、対しる発電機が全になくするとと言う、こととはありですが、別切る、洗剤・これますでは、「大き書かいため、「回避・でなく」とはいる、「対しています。 本方法書には「ライトアップをしないことによりがこととによりがこととによりできないため、「回避・でなく」に該できると思う」といった内容の思報に対すると思う」といった内容の思想に対すると思うが、「ある程度(低減できると思う」などと主張している、現実保全措置については、人後の現地調査により、最新の知見であります。 「・「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「大きない」は、「オース・「大きない」は、「大きない			
** おが取らされる。 「干別に不確実性を伴う」としても、それは「保全措置を検討しなくてよい。 技術とはならない。などはならでセス省令によれば「影響がない」及び「影響が極めてからい」と関節される以外は環境保全措置を検討すること。になっているからだ。 ■ 「干別の不確実性」を模様に保全措置を実施しないのは、発電所アセス 省令によする行為で「完護切」2 国内の風力発電機施設において、バットストライクが多数生し、コウェリ 類へ影響が生じている。しかし国内の風発事業者の中に「影響の程度(死亡する数)が確実に下列できない」ことを根拠に、適切な保全措置を実施 (検討さえ)せず、事後調査に保全措置を実施りする事業者が規長される。 文性的予測であれば、国内外へ風力が整理施はおいて、メットストライクが多数発生しており、『コウキリ類への影響はない』「コウキリ類への影響は極めったもい」とは、同の外へ風力が整理施はおいて、メートス・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア			
「予測に不確実性を伴う」としても、それは「保全措置を検討しなくてよい。 「対機にはならない。なぜならアセス名令によれば、影響がない)及び 「影響が極めて小さい」と削防される以外は環境保全措置を検討すること、になっているからだ。 9 ■「予測の不確実性」を根限に保全措置を実施しないのは、発電所アセス 名令に戻する行為で「不適切」2 国内の面発電無施取とおいて、パットストライクが多数生じ、コウモリ 類へ悪影響が生じている。しかし国内の面発事業者の中に「影響の程度(死 しする数)が確実に予測できない」ことを根拠に、選切な保全措置を実施 (検討さえ)せず、事後調査に保全措置を光透りする事業者が収力の影響 は様めて小さい」とは言い切れない。アセス名令による「環境保全措置を検討 は様ので小さい」とは言い切れない。アセス名令による「環境保全措置を検討 は様ので小さい」とは言い切れない。アセス名令による「環境保全措置を検討する」段階にすでに入っている。 上つて、本事業者の課題は、「経亡するコウモリの数」を「いかに不能 実性を使わずに予測するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回避」と「影響の回避」とは、事業とで何違・低速するか」である。そのための調査を「準備きまでに」実施して頂査をいい。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「「影響の回避」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に対して、事業計画の変更も含め、影響を全地がに予測するが、では、するから表分な種属を確保することと考しい。 「影響の回避」とは、事業計画の変更も含め、影響を全地がよる方分な種属を確保することを予測される環境影響に対して、これについての定義を述べよ。 「「影響の回避」とは、事業計画の変更も含め、影響に対して生じると予測される環境影響に対して生じると予測される環境影響に対し、するような観視を確保をは、ことなどの対応を図ることと予測される環境影響について、まま書が重しまる保護に対しまる保護に誘力される環境影響について、その程度を可能なとなどの対応を図ることと考えています。 「おりよくするとも予測される環境影響に対しまる程度に対しまれる環境といます。」となどの対応を図してとな予測される環境影響に対しませ、ことなどの対応を図しまるとと考えています。ことを検討でいます。 「保護に誘力される環境を書でいます。」となども表しています。ことを持行ないます。「発生の関係に誘力される環境を発生しないます。」となどとを表えています。「発生の関係に対しませ、こととより、対しないませ、こととは、対しないませ、こととは、対しないませ、こととは、対し、に減当するものと理解しています。こり、最新の規定に対しませ、こととは、アットストラライトアップをしないます。 「おりまなないます。「おりまなないます」を発しています。 「おりまなないます」を表しています。ことと表はでいまするとと表はでいまするとと思うなないます。「ありまなないます」を表しています。「表しいまなないます」を表しませ、こととは、アットスを発しています。「表しいまなないます」を表しています。「表しいまなないます。「表しいまなないます」を表していまなないます。「表しいまなないまなないます。「表しいまなないまなないまなないまなないまなないまなないまなないまなないまなないまな			(/2 0 %) 0
□ 1 根拠にはならない。なぜならアセス省合によれば「影響が起めて小さい」と判断される以外は環境保全措置を検討すること。になっているからだ。 □			
世の一般の主義を表しているからだ。 ■「中側の不確実性」を根拠に保全措置を実施しないのは、発電所アセス省合には不可能では関する目的では、バットストライクが多数生じ、コウモリ類へ悪影響が生じている。しかし国内の風を主義者の中に「影響の程度(氏・なっちみ)が確実に予測できなか」ととを根拠に、強切な保全措置を実施しながら、環境保全措置を検討してする数が確実に予測できなか」ととを根拠に、強切な保全措置を実施しては、大きないる。とかし、東空には、大きなの影響などのでは、大きないる。とかし、東空には、大きないでバットストライクが多数生している。しかし、アセス省合による「環境保全措置を検討しては、大きない」とは言い切れない。アセス省合による「環境保全措置を検討している」とかり、関連して、アセス省合による「環境保全措置を検討している」とかり、とは言い切れない。アセス省合による「環境保全措置を検討している。とかし、本事業者もの課題は、「死亡するコウモリの数」を「いかに不確、実性を推かすに下側するか」ではなく、「いかにコウモリ関への影響を回避・といが、「変にするコウモリの数」を「いかに不確、実性を推かすと「一側ではない」「影響の回避」とは、事業に持って生じると予測される環境影響に、対し、事業計画の変更も含め、影響発生を図の通さを「のとまっない」」とを表していて、その程度を可能なのに、ままに対して、一般では、ままに対して、ままに対して、これまでのとよう一切報告がない。これについて2事業者のは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」」ことを表していて、その程度を可能なのと、ままに対して、ままに対して、ままに対して、ままに対して、ままに対して、ままに対して、ままに対して、ままに対して、ままに、のとよう一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べまままがより、最初の観に表しまと思うが、「ある程度のバットストライクは発生している。これについて、ままでのとようのと思うが、「ある程度は低減できると思うが、などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思うが、などと主張すると思うが、「ないこととによりがメーストストライクに続きています。 環境保全指置については、今後の現地調査により、最初の知りを表している。これについてままないまがままれています。 本方法書は「ライトアップをしまいますがままれています。 「回避」でなく「伝統」に該当するものと理解しています。 現境保全指置については、今後の現地調査により、最初の知りを表しています。 現境保全指置については、今後の現地調査により、最初の知りで表しています。 現場保全指置についでは、今後の現地議定によっては、今後の現地議定により、最初の知りを言いませないませないませないませないませない。 環境保全指置については、今後の現地調査により、最初の知りを言いませないませないませないませないませないませないませないませないませないませな			
と、になっているからだ。 「子凋の不確実性」を根拠に保全措置を実施しないのは、発電所アセス 者令に反する行為で「本適り」2 国内の国力発電機能設において、バットストライクが多数生し、コウモリ 類へ感影響が比している。しかし国内の風発事業者の中に「影響の程度(低 亡する数)が確実に予測できない」ことを根拠に、適切な保全措置を実施 (検討さ入)せず、事後調否とない」ことを表送りする事業者が放見される。 定性的予測でおれば、国内外の風力発電施設においてバットストライクが多数発生しており、『コウモリ類への影響はない』『コウモリ類への影響はない』『コウモリ類への影響はない。『コウモリ類への影響を耐震・低減する」段階にすでに入っている。 よって、本事業者もの課題は、「死亡するコウモリの数」を「いかに不確実性を性力でに予測であ」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回避・低減する」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回避・低減する」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回避・低減する」ではなく、「いかにコウモリの整動を「実施して頂」を「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響についてよい。ことなどの対応を図ることと考えています。 「同避」と「低減」の言葉の定義について2 事業者もは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことは一カ方「影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響についてえると考えでいます。 「ライトアップしない」ことは、事業者のは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ととは一カを観力を検討したる原との主と考えています。 「ライトアップしない」ことは、コウモリ系の餌となる最よ顕が思力を報りによって、カーカを観視が思力を観けるれる原因のひとを見が終くことで、証をとと考えています。 「ライトアップしない」ことは、予定と記さいます。 「ライトアップしない」ことは、予定と考えています。 「ライトアップしない」ことは、予定と考えています。 「ライトアップしない」ことは、予定とで、証をととを扱うのもりですが、風力発電機近くにおけるコウモリ類のとのよりですが、風力発電機近くにおけるコウモリ類のといます。 「ライトアップをしないだっとは、方とで、証をとしたの表別に変当するものと理解しています。 「カース・大きには、ライトアップとしない。ことによりだりバットストライクを低減できる」といった内容の現地調査により、最大の関連を操すっています。 「カース・大きないないましています。」 「カース・大きないる性質を表しています。」 「カース・大きないる性質が表しています。」 「カース・大きないる性質が表しています。」 「カース・大きないる性質が表しています。 「カース・大きないる性質が表しています。」 「カース・大きないる性質が表しています。」 「カース・大きないる性質が表しています。」 「カース・大きないる性質が表しています。 「カース・大きないる性質が表しています。」 「カース・大きないるでは、ないます。」 「カース・大きないるでは、ませいるでは、ます。」 「カース・大きないるでは、ます。」 「			
留今に反する行為で「不適即」2 国内の風力発電機施設において、バットストライクが多数生じ、コウモリ 類へ悪影響が生じている。しかし固内の風殆事業者の中に「影響の程度(定してする数)が確実に予測できない」ことを推測と、適切が保全格関を実施 (検討さえ)せず、未移書される場である。定性的予測であれば、国内外の風力発電施設においてバットストライクが多数発生しており、『コクモリ類への影響は極めた小さい』とは言い切れない、アセス省でしまる「環境保全措置を検討 がたします。 を検討する」段時にすでに入っている。 よって、本事業者の副選組は、一形で十つる一方の課題を「発情事までに」実施して頂きたい。 10 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べま。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べま。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べま。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べま。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べま。 「影響の回避」とは、事業に伴ったまり、『シャン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
国内の風力発電機施設において、バットストライクが多数生じ、コウモリ 類へ悪影響が生じている。しかし国内の風発事業者の中に「影響の程度(死 亡する数)が確実に予測できない」ことを供拠に、適切な保全精固を実施 (検討さえ)せず、事後調査に保全措置を失送りする事業者が散見される。 定性的予測であれば、間均外の風力影響はない』『コウモリ類への影響 は極めて小さい』とは言い切れない。アセン名令による「環境保全措置を 検討する力」と関すでに入っている。 よって、本事業者の思想は、「死亡するコウモリの数」を「いかに不確 実性を伴わずに予削するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回 避・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂 更・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂 電・医療の回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「声」とで生じると予測される環境影響に対し、事業計画の変更も含め、影響についてまる。よっな生むとあるが観視を確保することなどの対応を図ることと考えています。 一方「影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能な 限りからま分な離視を確保することを考えています。 一方「影響の低減」とは、事業計画の 見直もしるか、対策を検討、適用 することと考えています。 よ。 「回避」と「低減」の言葉の定義について2 事業者もは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしないこと」により「ある程度におい」でもリ策の解となる昆虫類が風力発電機のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ、よ。 「表述表現が風力発電機のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ、ことによりのでは、「のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ、こととれたうりですが、風力 発電機正くにおけるコウモリ類の 飛翔を完全になくコことはできぬように表述することで、質を強適しています。 コー酸措置(ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これについて事業者などとままなも思うが、「ある程度は低減できると思う」といった内容の 記載されていままれていては、今後 の現地書音により、泉新の知りましままえながら検	9	■「予測の不確実性」を根拠に保全措置を実施しないのは、発電所アセス	今後実施する現地調査に基づき、
取へ悪影響が生じている。しかし国内の風傷事業者の中に「影響の程度(疾亡する数)が確実に予測できない」ことを根拠に、適切な保全措置を実施 (検討さえ)せず、事後調査に保全措置を完造りする事業者が散見される。定性的予測であれば、関内外の風力発電施設においてバットストライクが多数発生しており、『コウモリ類への影響は極めて小さい』とは言い切れない。アセス省令による「環境保全措置を検討する」段階にすでに入っている。まって、本事業者らの課題は、「死亡するコウモリの数」を「いかに不確実性を住わずに予測するか」ではなく、「いかにコウモリ頭への影響と回避・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂きたい。 10 ■「回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に対し、事業計画の変更も含め、影響発生要因をなくすこと、あるいは保全対象から充分な確隔を確保することなどの対応を図ることと考えています。 「同避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に対し、事業計画の変更も含め、影響発生要因をなくすこと、あるいは保全対象から充分な確隔を確保することなどの対応を図ることと考えています。 「財産の可避」と「低減」の言葉の定義について2事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことは影響について生ると考えています。 事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことは影響についてと相ばるかもしれないが、「ライトアップとしない」ことは影響の『回避・計画であり、『低減』計置でもあり、『低減」された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 「ライトアップを可能を通過であり、「低減」これに表別のとことで、制力を発機に終引される原因のひとつと思りがある程度のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 定義機正くにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすこととできなよ。 「ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」といった内容の記さしている。これについて事業者は「ライトアップをしないことによりパットストライクを低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うはない。 変境保全措置については、今後の現地書とはいまれているであると思う」などと主張すると思うは発展していまれては、表別に対している。これについて事業者は「ライトアップをしないことによりパットストライクを低減できると思う」などと主張りが、トストライクを低減できると思う、などと生気しなが、しまりでは、まれているでは、なれているでは、まれているでは、まれているでは、まれているでは、まれているでは、まれているでは、まれているでは、まれているでは、まれているでは、まれているでは、まれているでは、ま		省令に反する行為で「不適切」2	重大な環境影響が及ぶと予測され
でする数)が確実に予測できない」ことを根拠に、適切な保全措置を実施 (検討さえ)せず、事後調査に保全措置を先送りする事業者が散見される。 定性的予測であれば、国内外の風力発電施設においてバットストライクが 多数発生しており、『コウモリ類への影響はない』『コウモリ類への影響はかい』とは言い切れない。アセス省令による「環境保全措置を検討する」段階にすでに入っている。 よって、本事業者らの課題は、「死亡するコウモリの数」を「いかに不確 実性を伴わずに予測であ」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回避・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂きたい。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能なしたまなど対応を図ることと考えています。 「方影響の低減」とは、事業と関めなくすこと、あるいは保全対象から充分な離隔を確保することなぎの対応を図ることと考えています。 「方・影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能なしまながあた。と考えています。 「方・大・ア・ブしない」」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能ない。ことを掲げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ことは影響について、その程度を対策にあることと考えています。 より「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 「方・イトアップしない」に対しています。ことを視らうつもりですが、風力発電機でくを視するものと事が、風力発電機にできると思う、などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思ういません。環境保全措置については、今後、現場のできると思う、などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思ういません。 環境保全措置については、今後、現場のできると思ういません。 環境保全権間については、今後、現場のできると思ういません。 「環境保全措置については、今後、再の家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言も、まえながら検専門家等の助言も、まえながら検専門家等の助言も、ままなが、「ないことにより、「おりでは、「ないことにより、「ないいことにより、「ないことにより、「ないことにより、「ない、ことにより、ないことにより、ないにない、ないにない、ないにない、ないにない、ないにないにない、ないにない、ないにないない、ない		国内の風力発電機施設において、バットストライクが多数生じ、コウモリ	た場合には、専門家等の助言もふ
(検討さえ)せず、事後調査に保全措置を先送りする事業者が散見される。 定性的予測であれば、国内外の風力発電施設においてバットストライクが 多数発生しており、『コウモリ郷への影響はない』『コウモリッの製」を「いかに不確 実性を伴わずに予測するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回 避・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂 支たい。 10 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」とは、事業の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」とは、事業の必要を回 変とい。 「影響の回避」とは、事業の必要を回 変をない。 「影響の回避」とは、事業の必要を回 変をない。 「影響の回避」とは、事業の必要を回 変をない。 「影響の回避」とは、事業の必要を回 変をないました。あるいは保 会対象からな始間を確保することなどの対応を図ることと考えています。 一方「影響のに対しての定義を述べよ。 「事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしないことは影響の『回 適選】措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップをしないことは影響の『回 適選】措置であり、『低減』指置ではない。「ライトアップをしないことは影響の『回 適選」指置であり、『低減』指置ではない。「ライトアップをしないことは影響の『回 適選」者置であり、『低減』指置ではない。「ライトアップをしないことにより影響により、と考えています。 「ライトアップをでしない。これについて、事業者の見解とその理由を述べま、またのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べま、またが、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解でしています。 本方法書には「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」といった内容の 電域保全措置については、今後 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 環境保全措置については、今後 の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検		類へ悪影響が生じている。しかし国内の風発事業者の中に「影響の程度(死	まえながら、環境保全措置を検討
定性的子側であれば、国内外の風力発電施設においてバットストライクが多数発生しており、『コウモリ類への影響はない』『コウモリ類への影響と検討する」段階にすでに入っている。よって、本事業者らの課題は、「死亡するコウモリ型の影響を回避・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂意たい。 10 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に対し、事業計画の変更も含め、影響発生要因をなくすこと、あると考えています。 一方「影響の低減」とは、事業に伴ってとしなとなどの対応を図ることと考えています。 一方「影響の低減」とは、事業に伴ってとしなとを必ず対応を図ることと考えています。 「ライトアップを検討」とは、事業に得っても生じると予測される環境影響に対して、事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことは影響の原のと避別・からたくするため、事業計画の見直しも含め、対策を検討、適用すること考えています。 「ライトアップと検討」とは、事業に得ってもどうと考えています。 「ライトアップと検討」とは、事業に得ってもどうと考えています。 「ライトアップを検討」といますと考えています。 カ発電機に誘引される原因のひと避り除くことで、何を迫ってとより「ある程度のですが、風力発電機にあらもりですが、風力発電機とことの関係機に表している。これについて、事業者の見解とその理由を述べまといます。 「ライトアップをしない」とは影響の原のとと表別が、「ある程度は低減できると思うが、「自か発性しています。 本方法書には「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見、環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見、事門家等の助言もふまえながら検認はさざいません。 環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見、事門家等の助言もふまえながら検容になっています。		亡する数)が確実に予測できない」ことを根拠に、適切な保全措置を実施	いたします。
多数発生しており、『コウモリ類への影響はない』『コウモリ類への影響は極めて小さい』とは言い切れない。アセス省令による「環境保全措置を検討する」段階にすでに入っている。よって、本事業者らの課題は、「死亡するコウモリの数」を「いかに不確実性を伴わずに予測するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回避・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂きたい。 □ 「即避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」とは、事業計画の変更も含め、影響発生要因をなくすこと、あるいは保全対象から充分な離隔を確保することなどの対応を図ることと考えています。 一方「影響の低減」とは、事業計画の表情について、その程度を可能、影響について、その程度を可能、別方なくするため、事業計画の見直しも含め、対策を検討、適用することを掲げるかもしれないが、「アップをしない」ことは影響について、その程度を可能、影響について、その程度を可能、関り小さくするため、事業計画の見直しも含め、対策を検討、高用することを考えています。 「ライトアップしない」ことは、事業の上機であり、『低減』指置ではない。「ライトアップをしない」ことは影響の「回難が関したと表現方のかもしれないが、「デットアップをしない」ことは影響にある程度ので、メルストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ、「のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ、「同避」でなく「低減」に対しておけ、「同避」でなく「低減」に対しておけ、「同避」でなく「低減」に対しておけ、「同避」でなく「低減」に対しておけ、「同避」でなく「低減」に対しておけ、「同避」でなく「低減」に対しておけ、「同避」でなく「低減」である程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」といった内容の知识できる」といった内容の知識はごといません。環境保全措置については、今後の知見や専門家等の助言もふまえながら検の知ります。			
は極めて小さい』とは言い切れない。アセス省令による「環境保全措置を検討する」段階にすでに入っている。 よって、本事業者の課題は、「死亡するコウモリの数」を「いかに不確実性を伴わずに予測するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回避・低減するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回避・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂きたい。 10 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に対しての企義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に対して、で生じると予測される環境影響に対して、その程度を可能な限り小さくするため、事業計画の見直しも含め、対策を検討、適用り直しも含め、対策を検討、適用することと考えています。 「同避」と「低減」の言葉の定義について2 事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことは影響の「回避」措置であかしれないが、「ライトアップをしない」ことは影響の『回避」措置ではない。「ライトアップしない」ととは、可を選出新の風力発電機に誘引される原因のひとつところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 「ライトアップを低減」された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 「同避」でなく「低減」でなく「低減」でなく「低減」でなく「低減」でなく「低減」でなく「低減」でなく「低減」では、おけるコウモリ類の解判を完全におけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「同避」でなく「低減」に該当するのと思射には、「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は微減できると思う」といった内容の思いなに、今後の知りまないことによりだいません。環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知ります。			
検討する」段階にすでに入っている。 よって、本事業者らの課題は、「死亡するコウモリの数」を「いかに不確 実性を停むずに予測するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回避・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂きたい。 10 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 11 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について2 事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能の見直しも含め、対策を検討、適用とさるを対応を図ることと考えています。 11 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について2 事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能の見直しも含め、対策を検討、適用することと考えています。 12 ■回避措置(ライトアップをしない」に対して、「ライトアップをしない」のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 12 ■回避措置(ライトアップの不使用)について まずるこのとでは、は、おびとのでしまりのでは、別の表電機近くにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」が風力発電機でくにおけるコウモリ類のアルとを飛射する順度を低下させることを発えています。 「見が書機に誘引される原因のひとの表で後に誘うされる原因のひとない。」に対しるコウモリ類の問題を完全になくすことはできないため、「回避」するものと理解しています。 最後にくにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」するものと理解しています。 最後にくにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 最後にくにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」が必要があるコースとによりが、より、人類の知りまするものと理解しています。 なが、このでは、できると思うが、「ある程度は低減できるとといった内容の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら表もないません。 まずまでは、まずまがまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まがまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まずまでは、まがま			
まって、本事業者もの課題は、「死亡するコウモリの数」を「いかに不確実性を伴わずに予測するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回差とい。 10 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」とは、事業計画の変更も含め、影響発生要因をなくすこと、あるいは保全対象から充分な離隔を確保することと考えています。 「方影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に対して、その程度を可能な限りからくするため、事業計画の見直しも含め、対策を検討。適用することと考えています。 「ライトアップしない」ことは事業者のは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことを掲げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ことは影響の『回避』皆置であり、低域』措置ではない。「ライトアップしないこと」により「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 ■回避措置(ライトアップの不使用)について、事業者の見解とその理由を述べる。 「ライトアップをしていなくてもだットストライクは発生している。これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べま、 「ライトアップをしていなくでもだットストライクに強性している。これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べま。 ■回避措置(ライトアップの不使用)について、事業者の見解とその理由を述え、表示法書には「ライトアップを世後」に該当するものと理解しています。 ないことによりが、風力発電機近くにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 本方法書には「ライトアップをしないことによりが、大トライクは発生している。 これたまでは、ライトアップをしないことによりが、大トライクは発生している。これでは、する後の現れています。 本方法書には「ライトアップをしないことによりが、大トライクに表生している。 東境保全措置については、今後の現れでは、またないも検えないません。 東境保全措置については、今後の現れでは、またないも検えないとにより、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検索はないません。			
 実性を伴わずに予測するか」ではなく、「いかにコウモリ類への影響を回達・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂きたい。 10 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について1「影響の回避」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に対し、事業計画の変更も含め、影響発生要因をなくすこと、あるいは保全対象から充分な離隔を確保することなどの対応を図ることと考えています。			
 避・低減するか」である。そのための調査を「準備書までに」実施して頂きたい。 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について1 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 第生関因をなくすこと、あるいは保全対象から充分な確隔を確保することなどの対応を図ることと考えています。 ことなどの対応を図ることと考えています。 一方影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に対し、事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことは多響の「回避」措置であり、『低減』者置ではない。「ライトアップをしない」ことは影響の「回避」措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップとない」ことは影響の「回避」措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」により「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 ■回避措置(ライトアップの不使用)について、事業者の見解とその理由を述べる方とではいましています。 本方洗書には「ライトアップをしていまっ。ことをねらうつもりですが、風力発電機近くにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 本方洗書には「ライトアップをしていまっ。本方法書には「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できるとと思う」といった内容の記載はございません。環境保全措置については、今後の現場できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できるとと聴力」といった内容の即式を指置については、今後の現場できると思う」といった内容の即式を指置については、今後の現場できると思う」といった内容の即式を指置については、今後の現場できると思う」をとま張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」といった内容の事でままえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながらを 			
で記録」と「低減」の言葉の定義について1			
10 ■「回避」と「低減」の言葉の定義についての定義を述べよ。 「影響の回避」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響に対し、事業計画の変更も含め、影響発生要因をなくすこと、あるいは保全対象から充分な離隔を確保することなどの対応を図ることと考えています。 一方「影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能な限りからくするため、事業計画の変更も含め、対策を検討、適用することと考えています。 一方「影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能な限りからくするため、事業計画の見直しも含め、対策を検討、適用することと考えています。 「ライトアップしない」ことは事の『回遊』指置であり、『低減』指置ではない。「ライトアップをしない」ことは影響の『回遊』指置であり、『低減』指置ではない。「ライトアップしないこと」により「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 ■回避措置(ライトアップの不使用)について、事業者の見解とその理由を述べたが、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 本方法書には「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できるとになりバットストライクを低減できる」といった内容の記載はございません。環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検			
「影響の回避」と「影響の低減」についての定義を述べよ。 て生じると予測される環境影響に対し、事業計画の変更も含め、影響発生要因をなくすこと、あるいは保全対象から充分な離隔を確保することなどの対応を図ることと考えています。 一方「影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能な限りかさくするため、事業計画の見直しも含め、対策を検討、適用することと考えています。 「ライトアップを検討、適用することと考えています。 「ライトアップとしない」ことは影響の「回避」措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」により「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 「関連措置(ライトアップの不使用)について、事業者の見解とその理由を述べることを担ううない。これについて、事業者の見解とその理由を述べることをおらうつもりですが、風力発電機近くにおけるコウモリ類の飛翔を全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 「関連措置(ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと表記を記すると思うないます。	1.0		「影郷の同窓」は、東光に似っ
対し、事業計画の変更も含め、影響 発生要因をなくすこと、あるいは保 全対象から充分な離隔を確保する ことなどの対応を図ることと考え ています。 一方「影響の低減」とは、事業 に伴って生じると予測される環境 影響について、その程度を可能 限り小さくするため、事業計画の 見直しも含め、対策を検討、適用 することと考えています。 「ライトアップしない」ことは 事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」 ことを掲げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ことは影響の『回 避」措置でめり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」に より「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまで のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ よ。 12 ■回避措置(ライトアップの不使用)について ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。 これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 対し、事業計画の変更も含め、影響 発生図をなくすと、事業 を操行ると考えています。 本方は、第3年の観となる見と類が風力発電機に誘引される原因のひと つを現り除くことで、餌を追って 飛来するコーロ・サ類の解とるの理由を述べ ことをおようつもりですが、風力 発電機に誘うつもりですが、風力 発電機に持つています。 本方法書には「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できる」といった内容の 記載はございません。 環境保全措置については、今後 の現地調査により、最新の知見や 専門家等の助言もふまえながら検 専門家等の助言もふまえながら検	10		
発生要因をなくすこと、あるいは保全対象から充分な離隔を確保することなどの対応を図ることと考えています。 一方「影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能な限りかさくするため、事業計画の見直しも含め、対策を検討、適用することと考えています。 「ライトアップをしない」ことは影響の『直遊』措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップをしない」ことは影響の『直遊』措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」により「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 「回避」でなく「低減」に該当さものと理解しています。 ことをねらうつもりですが、風効発電機近くにおけるコウモリ類の無料を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 本方法書には「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できるとしないことによりがットストライクを低減できる」といった内容の記載はございません。 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 「現代保証するとと、あるいは保全対象が、「ライトアップをしない」とは、事業を検討、「ライトアップをしていなく「低減」に該当するものと理解しています。本方法書には「ライトアップをしないことによりがットストライクを低減できる」といった内容の記載はございません。 現境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検		「影音の回避」と「影音の区域」に リいくの足我を近いよ。	
全対象から充分な離隔を確保することと考えています。			
2となどの対応を図ることと考えています。			
でいます。			
□ 一方「影響の低減」とは、事業に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能な限り小さくするため、事業計画の見直しも含め、対策を検討、適用することと考えています。 □ 「回避」と「低減」の言葉の定義について2事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことは影響の『回避遺間であり、『ライトアップをしない」ことは影響の『回遊遺間であり、『伝減』間であり、「ライトアップしないこと」により「ある程度のパットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 □ 回避措置(ライトアップの不使用)についてライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できるととないった内容の記載はございません。環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見専専門家等の助言もふまえながら検専門家等の助言もふまえながら検			
に伴って生じると予測される環境影響について、その程度を可能な限り小さくするため、事業計画の見直しも含め、対策を検討、適用することと考えています。 11 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について2事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」ことは関の値となる昆虫類が風力発電機に誘引される原因のひとつを取り除くことで、餌を追ってより「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 12 ■回避措置(ライトアップの不使用)についてライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できるととないう主張は事業者の主観に過ぎない。 に伴って生じると予測される環境にあることとと考えています。 「ライトアップしない」ことはコウモリ類の側を電機に誘引される原因のひとつを取り除くことで、餌を追って飛来するコウモリ類が風力発電機により、で表別する頻度を低下させることをねらうつもりですが、風力発電機にくにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 本方法書には「ライトアップをしないことによりパットストライクを低減できる」といった内容の記載はございません。環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検			
□ 「回避」と「低減」の言葉の定義について2 事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」 ことを掲げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ことは影響の『回避』措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」により「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 □ 回避措置(ライトアップの不使用)についてライトアップをしない」などとでは対して、第末するコウモリ類の無対を低低できないため、「回避」でなく「低減」に該当する頻度を低下させ、風力発電機近くにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 □ 回避措置(ライトアップの不使用)についてライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できるとにより、シャントトラークを低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できるとという主張は事業者の主観に過ぎない。 □ の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検			
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □			影響について、その程度を可能な
11 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について2 事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」 ことを掲げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ことは影響の『回 避』措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」に より「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまで のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ よ。 ■回避措置(ライトアップの不使用)について ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。 これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 することと考えています。 「ライトアップしない」ことは コウモリ類の餌となる昆虫類が風 力発電機に誘引される原因のひと つを取り除くことで、餌を追って 飛来するコウモリ類が風力発電機 近くにおけるコウモリ類の 飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」 に該当するものと理解しています。 本方法書には「ライトアップを しないことによりバットストライクを低減できる」といった内容の 記載はございません。 環境保全措置については、今後 の現地調査により、最新の知見や 専門家等の助言もふまえながら検			限り小さくするため、事業計画の
11 ■「回避」と「低減」の言葉の定義について2 事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」 ことを掲げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ことは影響の『回 避別措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」に より「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまで のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ よ。 12 ■回避措置(ライトアップの不使用)について ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。 これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 「ライトアップしない」ことは コウモリ類の餌となる昆虫類が風 力発電機に誘引される原因のひと つを取り除くことで、餌を追って 飛来するコウモリ類が風力発電機 近くを飛翔する頻度を低下させる ことをねらうつもりですが、風力 発電機近くにおけるコウモリ類の 飛翔を完全になくすことはできな いため、「回避」でなく「低減」 に該当するものと理解しています。 本方法書には「ライトアップを しないことによりバットストライクを低減できる」といった内容の 記載はございません。 環境保全措置については、今後 の現地調査により、最新の知見や 専門家等の助言もふまえながら検			
事業者らは今後、コウモリ類への影響に対して「ライトアップをしない」コウモリ類の餌となる昆虫類が風力発電機に誘引される原因のひと遊』措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」により「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 12 ■回避措置 (ライトアップの不使用) についてライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できるととにより、場新の知見や専門家等の助言もふまえながら検			
正とを掲げるかもしれないが、「ライトアップをしない」ことは影響の『回 選』措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」に より「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまで のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ よ。	11		
 避』措置であり、『低減』措置ではない。「ライトアップしないこと」により「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 □とをわらうつもりですが、風力発電機近くにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 □回避措置(ライトアップの不使用)についてライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」を低減できる」といった内容の記載はございません。環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検 		<u> </u>	
より「ある程度のバットストライクが『低減』された事例」は、これまでのところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べよ。 12 ■回避措置 (ライトアップの不使用) についてライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」といった内容の記載はございません。環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検			
のところ一切報告がない。これについて、事業者の見解とその理由を述べ よ。 近くを飛翔する頻度を低下させることをねらうつもりですが、風力発電機近くにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 12 ■回避措置(ライトアップの不使用)についてライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」といった内容の記載はございません。環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検			
よ。 ことをねらうつもりですが、風力発電機近くにおけるコウモリ類の飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 □回避措置 (ライトアップの不使用) についてライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」といった内容の記載はございません。環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検			
発電機近くにおけるコウモリ類の 飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」 に該当するものと理解しています。 12 ■回避措置 (ライトアップの不使用) について ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。 これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 電境保全措置については、今後 の現地調査により、最新の知見や 専門家等の助言もふまえながら検			
 飛翔を完全になくすことはできないため、「回避」でなく「低減」に該当するものと理解しています。 ■回避措置(ライトアップの不使用)についてライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言もふまえながら検 		£.	
12 ■回避措置 (ライトアップの不使用) について ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。 これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 「いため、「回避」でなく「低減」 本方法書には「ライトアップをしないことによりがいった内容の にないことによりバットストライクを低減できる」といった内容の 記載はございません。 環境保全措置については、今後の現地調査により、最新の知見や 専門家等の助言もふまえながら検			
12 ■回避措置 (ライトアップの不使用) について ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。 これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 で表法書には「ライトアップをしないことにより影響はある程度 に該当するものと理解しています。 本方法書には「ライトアップを しないことによりバットストライ クを低減できる」といった内容の 記載はございません。 環境保全措置については、今後 の現地調査により、最新の知見や 専門家等の助言もふまえながら検			
12 ■回避措置(ライトアップの不使用)について ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。 これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 本方法書には「ライトアップを しないことによりバットストライ クを低減できる」といった内容の 記載はございません。 環境保全措置については、今後 の現地調査により、最新の知見や 専門家等の助言もふまえながら検			
ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。 これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 環境保全措置については、今後 の現地調査により、最新の知見や 専門家等の助言もふまえながら検	19	■回避措置 (ライトアップの不使用) について	
これについて事業者は「ライトアップをしないことにより影響はある程度 低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。	14		
低減できると思う」などと主張すると思うが、「ある程度は低減できると 思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。			
思う」という主張は事業者の主観に過ぎない。 環境保全措置については、今後 の現地調査により、最新の知見や 専門家等の助言もふまえながら検			I =
の現地調査により、最新の知見や 専門家等の助言もふまえながら検			
専門家等の助言もふまえながら検			

3.7		
No.	質問・指摘事項等	事業者の見解
13	■回避措置(ライトアップの不使用)について	本方法書には「ライトアップを
	ライトアップをしていなくてもバットストライクは発生している。これは	しないことによりバットストライ
	事実だ。ライトアップは昆虫類を誘引するが、だからといって「ライトア	クを低減できる」といった内容の
	ップをしないこと」により「コウモリ類の誘引を完全に『回避』」でき	記載はございません。
	るわけではない。完全に『回避』できないのでバットストライクという事	環境保全措置については、今後
	象、つまり「影響」が発生している。アセスメントでは影響が『回避』で	の現地調査により、最新の知見や
	きなければ『低減』するのが決まりである。よって、コウモリ類について 影響の『低減』措置を追加する必要がある。	専門家等の助言もふまえながら検 討いたします。
14	■コウモリ類の保全措置(回避)について	環境保全措置については、今後
14	樹林内に建てた風車や、樹林(林縁)から 200m 以内に建てた風車は、バ	の現地調査により得られたコウモ
	ットストライクのリスクが高いことが、これまでの研究でわかっている。	リ類の出現状況等を基に、専門家
	低空(林内)を飛翔するコウモリでさえ、樹林(林縁)か200m以内では	等の助言もふまえながら検討いた
	バットストライクのリスクが高くなる。よって、風力発電機は樹林から	します。
	200m 以上離すこと。	
15	■「ライトアップをしないことによりバットストライクを低減できる」と	本方法書には「ライトアップを
	は書いていない	しないことによりバットストライ
	「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」には「ライト	クを低減できる」といった内容の
	アップをしないことによりバットストライクを低減できる」とは書いてい	記載はございません。
	ない。同手引きの P3-110~111 には「カットイン風速をあげることで、衝	また、コウモリ類への影響につ
	突リスクを低下させることができる」と書いてある。研究で「カットイン	いては、調査・予測及び評価の結
	をあげること」がバットストライクを低減する効果があることが「すでに」	果を基に、専門家等の助言をいた
	判明している。(Effectiveness of Changing Wind Turbine Cut-in Speed	だきつつ、適切な環境保全措置を
	to Reduce Bat Fatalities at Wind Facilities Final Report, Edward	検討いたします。
	B. Arnett and Michael Schirmacher. 2010)	
16	■コウモリ類の保全措置を「コウモリを殺す前から」実施すること	今後実施する現地調査に基づき、
	上記について事業者は、「国内におけるコウモリの保全事例数が少ないの	重大な環境影響が及ぶと予測され
	で、(カットイン風速の値を上げる)保全措置は実施しない(事後調査の	た場合には、専門家等の助言もふ
	後まで先延ばしにする)」といった回答をするかもしれないが、環境保全	まえながら、環境保全措置を検討
	措置は安全側にとること。 個人世界は「コウェルな処式はない後回してはず、「コウェルな処式並に	いたします。
	保全措置は「コウモリを殺すまで」後回しにせず、「コウモリを殺す前」	
17	から実施することが重要である。 ■コウモリ類の保全措置を「コウモリを殺す前から」実施すること 2	今後実施する現地調査に基づき、
11	■コリモリ類の保生指値を「コリモリを殺り削から」 美旭りること 2 そもそも「コウモリに影響があることを知りながら適切な保全措置をとら	一
	てもても「コリモリに影響がめることを知りながら適切な床主相直をとらない のは、未必の故意、つまり「故意にコウモリを殺すこと に等しい	重人な環境影響が及ぶと子側され た場合には、専門家等の助言もふ
	ことを先に指摘しておく。仮に「適切な保全措置を実施しないでコウモリ	まえながら、環境保全措置を検討
	を殺してよい」と主張するならば、自身の企業倫理及び法的根拠を必ず述	いたします。
	べるように。	. = 0 3. / 0
18	■コウモリ類の保全措置を「コウモリを殺す前から」実施すること3	まずは今後の現地調査により当
	今後、事業者は「バットストライクの予測には不確実性が伴うので、事後	該地域のコウモリ類の生息状況の
	調査を行い、保全措置を検討する」などの主張をするかもしれない。	把握に努めます。
	この「バットストライクの予測には不確実性が伴うので、事後調査を行い、	その結果に基づき、重大な環境
	保全措置を検討する」という主張には、「予測に不確実性が伴う場合は、	影響が及ぶと予測された場合に
	適切な保全措置を先のばしにしてもよい」という前提が隠れている。しか	は、ご指摘事項もふまえ専門家に
	し発電所アセス省令に「予測に不確実性が伴う場合は、適切な保全措置を	助言を頂きつつ、コウモリ類に対
	先延ばしにしてもよい」という記載はない。これについて、事業者の見解	して負荷の少ない保全措置につい
	とその理由を「丁寧に」述べよ。	て検討いたします。
19	■コウモリ類の保全措置を「コウモリを殺す前から」実施すること 4	まずは今後の現地調査により当
	今後、事業者は「国内においてコウモリ類の衝突実態は不明な点も多く、	該地域のコウモリ類の生息状況の
	保全措置についても検討され始めた段階だ。よって事後調査を行い、保全	把握に努めます。
	措置を検討する」などの主張をするかもしれない。	その結果に基づき、重大な環境
	国内では2010年からバットストライクが確認されており(環境省自然環	影響が及ぶと予測された場合に
	境局野生生物課、2010、風力発電施設バードストライク防止策実証業務報	は、ご指摘事項もふまえ専門家に
	告書)、「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き(環	助言を頂きつつ、コウモリ類に対
	境省、2011)」にもコウモリ類の保全措置が記載されている。「コウモリ	して負荷の少ない保全措置につい
	の保全措置が検討され始めた」のは最近の出来事ではない。また、仮に「国	て検討いたします。
	内で保全措置が検討され始めた」からといって、それが「国内の風発事業	
	者が適切な保全措置を先のばしにしてよい」という根拠にはならないこと	
	を先に指摘しておく。事業者の見解とその理由を「丁寧に」述べよ。	

N.T.	「「「「「「「「「」」」」 「「「」」」 「「」」」 「「」」 「「」」 「	
No.	質問・指摘事項等	事業者の見解
20	■コウモリ類の保全措置について 事業者は目先の利益を優先し、自分たちの子孫につなぐべき生物多様性を とりあげてはいけない。『事後調査でコウモリの死骸を確認したら保全措 置を検討する』などという悪質な事業者がいたが、コウモリの繁殖力は極 めて低いので、一時的な殺戮が地域個体群へ与える影響は大きい。 コウモリの活動期間中に『カットイン凪速を少しあげれば』、バットスト ライクの発生を低減できることはこれまでの研究でわかっている。『ライ トアップをしないこと』はバットストライクを『低減する効果』は確認されていない。さらに『事後調査』は『環境保全措置』ではない。 『影響があることを予測』しながら『適切な保全措置』をとらないのは、 「発電所アセス省令」に違反する。	環境保全措置については、ご指摘をふまえ、今後の現地調査により、最新の知見や専門家等の助言も踏まえながら検討いたします。
21	■コウモリ類の捕獲調査について ・コウモリ類について配慮のかけた不適切な捕獲を行う業者がいる。よってコウモリの捕獲及び許可申請の際には必ず「コウモリ類の専門家」の指導をうける(うけさせる)べきだ。 ・6月下旬-7月中旬はコウモリ類の出産哺育期にあたるため、捕獲調査を避けるべきでないのか。 ・ハープトラップは高空を飛翔するコウモリを捕獲できないので、カスミ	コウモリ類の捕獲調査については、いただいたご意見を参考とし、また、専門家等の助言をふまえつつ、調査時期及び調査に用いる機材等も含めて適切に対応するよう検討いたします。 また、捕獲調査を行う際には、
	網も併用するべきではないか。 ・捕獲したコウモリは、麻酔をせずに、種名、性別、年齢、体重、前腕長等を記録し、すみやかに放獣するべきではないか。 ・捕獲個体やねぐらに残した幼獣への影響が大きいので、ハープトラップは、必ず夜間複数回見回るべきだ(夕方設置して、見回りせずに朝方回収などということを絶対に行わないこと)。 ・捕獲した個体を持ち帰り飼育しないこと。 ・実眠中の個体を絶対に覚醒させないこと。 ・冬眠中の個体を絶対に捕獲しないこと。	専門家等の指導に基づき、ハープトラップ以外にもかすみ網を併用することとし、対象個体の健康に影響がないように十分に留意して調査いたします。
22	■P272「バットディテクターによる高度別飛翔状況の記録」の調査地点について バットディテクターによる飛翔高度調査地点が1か所のみであるが、その 根拠を述べよ。「利用頻度を比較する」つもりならば、すべての風力発電 機設置位置(17箇所)において日没前から日の出まで自動録音調査する べきではないのか。	ご指摘事項について留意し、専門家等の助言をいただきつつ、調査・解析、予測及び評価を実施いたします。
23	■飛翔高度調査の期間について バットディデクターによる飛翔高度調査の期間は春季から秋季としているが、曖昧である。地元の専門家ヒアリングを踏まえた具体的な月数を述べること。	今後、専門家等の助言をいただ きつつ、具体的な調査期間等を検 討していく予定です。
24	■飛翔高度調査の期間について バットディデクターによる飛翔高度調査の期間は春季から秋季としてい るが、曖昧である。現地におけるコウモリの「活動時期」が不明ならば、 安全側にたち、4月から11月まで飛翔高度調査を実施すること。	今後、専門家等の助言をいただ きつつ、具体的な調査期間等を検 討していく予定です。
25	■バットディデクターによる調査期間について バットディデクターによる調査期間の記載がない。日没1時間前から、日 の出1時間後まで録音すること。	バットディテクターによる踏査 は日没1時間前から日没後3時間 程度を目安に実施する予定とし、 専門家等の助言をいただきつつ調 査を実施いたします。 なお、バットディテクターによ る高度別飛翔状況調査について は、調査期間中を通じて自動確認 記録を行います。
26	■バットディデクターによる調査について バットディデクターの探知距離は短く、地上からでは高空、つまりブレー ドの回転範囲の音声はほとんど探知できない。よって準備書には使用する バットディデクターの探知距離とマイクの設置方向(上向きか下向きか) を記載すること。 なお、「仕様に書いていない(ので分からない)」などと回答をする業者 がいたが、バットディテクターの探知距離は影響を予測する上で重要であ る。わからなければ自分でテストして調べること。	ご指摘事項については準備書に て記載する予定です。

環境影響評価方法書について提出された意見の概要と事業者の見解(意見書1)(6/7)

No.	質問・指摘事項等	事業者の見解
27	■重要種以外のコウモリ類について	重要な種及び注目すべき生息地
	事業者は重要種以外のコウモリについて影響予測や保全をしないようだ	を対象として予測、評価を行い、
	が、「重要種以外のコウモリは死んでも構わない」と思っているのか?日	適切な環境保全措置を検討する計
	本の法律ではコウモリを殺すことは禁じられているはずだが、本事業者は	画としていますが、コウモリ類全
	「重要種以外のコウモリ」について、保全措置をとらずに殺すつもりか?	般の保全に寄与するような環境保
		全措置の検討に努めます。
28	■バットストライクの予測は定量的に行うこと	ドイツで実用化された当該ソフ
	事業者が行う P266「バットディテクターによる高度別飛翔状況の確認(トウエアをそのまま日本国内で適
	自動録音バットディテクターによる調査)」は定量調査であり、予測手	用可能かどうかの検証が行われて
	法(解析ソフト)もすでに実在する(例えば「WINDBAT」	おらず、また、実際に適用した事
	http://www.windbat.techfak.fau.de/index.shtml) 等。また、バードス	例もないことから、現時点でこの
	トライクの予測手法も応用可能だ。	ソフトウエアを用いた予測を行う
	よって、バットストライクの予測を <u>「定量的 に行うこと</u> 。	ことは想定していません。引き続き
		最新の知見や専門家等の助言も踏ま
00	■「ぶ] マーニノカ)マ版フマ畑エ社・)マーハマの☆女典上田)マサダムム	えながら予測を実施いたします。
29	■「バットストライクに係る予測手法」について経済産業大臣に技術的な 助言を求めること	方法書に記載した調査・予測及 び評価の手法は、発電所アセス省
	切言を水めること 「既に得られている最新の科学的知見」によれば、バットストライクに係	の評価の手伝は、発電所/セス有 令に示されている選定の指針等に
	おに待られている最初の科子的知見」によれば、パットストノイクに依る調査・予測手法は欧米では確立されている技術である。しかしながら日	基づき検討し、コウモリ類の専門
	本国内では、ブレード回転範囲におけるコウモリ類の調査が各地で行われ	家等の意見をふまえ決定していま
	ながらも、「当該項目について合理的なアドバイスを行えるコウモリ類の	す。これらについては、今後、ご
	専門家 の絶対数は少なく、適切な調査・予測及び評価を行えない事業者	意見等をふまえながら、経済産業
	が散見される。事業者がヒアリングするコウモリ類の専門家について、仮	大臣によって審査され、手法等に
	に「地域のコウモリ相について精通」していたとしても、「バットストラ	ついて必要な勧告がなされます。
	イクの予測」に関しては、必ずしも適切なアドバイスができるとは限らな	以上の方法書の審査結果をふま
	い。また、残念ながら国内においてバットストライクの予測に関して具体	えて、環境影響評価の項目等の選
	的指針は策定されていない。	定を行うことになりますが、その
	よって、仮に事業者が「国内ではバットストライクの予測について標準化	際、必要であると認める場合には、
	された手法は公表されていない」、「国内ではコウモリ類の定量的予測は	環境影響評価法第11条第2項に従
	困難」と主張する場合は、環境影響評価第十一条第2項に従い、経済産業	い、技術的な助言を求めます。
	大臣に対し、「バットストライクに係る予測手法」について「技術的な助	
	言を記載した書面」の交付を求めること。	
30	■月2回程度の死骸探索調査など信用できない	今後実施する現地調査に基づ
	コウモリの死骸はスカベンジャーに持ち去られて3日程度で消失するこ	き、重大な環境影響が及ぶと予測
	とが明らかとなっている※。仮に月2回程度の事後調査で「コウモリは見	された場合には、専門家等の助言
	つからなかった」などと主張しても、信用できない。	もふまえながら、環境保全措置を
	※平成 28 年度〜平成 29 年度成果報告書 風力発電事業等導入支援事業 環境アセスメント調査早期実施実証事業環境アセスメント迅速化研究開	適用いたします。その際、予測に係
	環境プピステント調査平規夫施美証事業環境プピステント迅速化研先開発事業(既設風力発電施設等における環境影響実態把握 I 報告書)	る不確実性、保全措置効果の不確実性が残される場合に、事後調査によ
	光争素(成放風刀光电旭放守にねり O 現現影響夫態化佐 I 報古書) P213. NEDO, 2018	り検証する対応を検討します。
	1 210. NLDO, 2010	事後調査を適用する場合にも、
		内容、時期、頻度、結果の評価に
		ついて、専門家等の助言をいただ
		きながら進めることを予定してい
		ます。

環境影響評価方法書について提出された意見の概要と事業者の見解(意見書 1)(7/7)

No.	質問・指摘事項等	事業者の見解
31	■事後調査(死骸探索調査)は徹底的に実施すること	今後実施する現地調査に基づ
	コウモリ類の事後調査(死骸探索調査)は、毎週1回以上の頻度で4月か	き、重大な環境影響が及ぶと予測
	ら11月まで必ず実施すること。	された場合には、専門家等の助言
		もふまえながら、環境保全措置を
		検討いたします。その際、予測に係
		る不確実性、保全措置効果の不確実
		性が残される場合に、事後調査によ
		り検証する対応を検討します。
		事後調査を実施する場合にも、
		内容、時期、頻度、結果の評価に
		ついて、専門家等の助言をいただ
		きながら進めることを予定してい
		ます。
32	■コウモリ類の事後調査はナセルに自動録音バットディテクターを設置	今後実施する現地調査に基づ
	すること	き、重大な環境影響が及ぶと予測
	コウモリの事後調査は、ヨーロッパのガイドライン※に準拠し「コウモリ	された場合には、専門家等の助言
	の活動量」、「気象条件」、「死亡数」を調べること。コウモリの活動量	もふまえながら、環境保全措置を
	と気象条件は、死亡の原因を分析する上で必要である。「コウモリの活動	検討いたします。その際、予測に係
	量」を調べるため、ナセルに自動録音バットディテクターを設置し、日没	る不確実性、保全措置効果の不確実
	1時間前から日の出1時間後まで毎日自動録音を行い、同時に風速と天候	性が残される場合に、事後調査によ
	を記録すること。	り検証する対応を検討します。
	※「風力発電事業におけるコウモリ類への配慮のためのガイドライン	事後調査を実施する場合にも、
	2014年版 "Guidelines for consider ation of bats in wind farm projects"	内容、時期、頻度、結果の評価に
	Revision 2014" EUROBATSPublication Series No.6],	ついて、専門家等の助言をいただ
	(https://www.eurobats.org/sites/default/files/documents/news/Pub	きながら進めることを予定してい
	lication_No_6_Japanese.pdf)	ます。

環境影響評価方法書について提出された意見の概要と事業者の見解(意見書2)

埼玉県熊谷市在住S氏

No.	質問・指摘事項等	事業者の見解
33	コウモリ類について	頂いた意見書の全文を記載して
	欧米での風力発電アセスメントにおいて、最も影響を受ける分類群とし	おり、引き続き、準備書及び評価
	て、コウモリ類と鳥類が懸念されており(バット&バードストライク)、そ	書でも全文を記載いたします。
	の影響評価等において重点化されている。	
	国内でもすでに風力発電機によるバットストライクが多数起きており、	
	不確実性を伴うものではなく、確実に起きる事象と予測して影響評価を行	
	うべきである。	
	このことを踏まえて環境保全の見地から、本方法書に対して以下の通り	
	意見を述べる。	
	なお、本意見は要約しないこと。	
34	1. 方法書の段階でコウモリ類についてのヒアリングを行ったことは評価	方法書以降の段階についても必
	される。	要に応じてヒアリングを実施する
		方針です。
35	2. コウモリ類の調査において使用するバットディテクターはすべてフル	本事業のコウモリ類の調査で使
	スペクトラム方式の機種を用い、客観的な記録によって解析を行う必要が	用するバットディテクターはフル
	ある。そのことについて明記すること。	スペクトラム方式の機種を用いま
		す。準備書以降において、その旨
		を明記いたします。
36	3. 今後のコウモリ類の音声解析結果については、コウモリ類の音声につい	ご指摘事項もふまえ必要に応じ
	てまで詳しい専門家に助言を得る必要がある。	て専門家に助言をいただきつつ検
		討いたします。
37	4. コウモリ類調査については十分な経験と知識を持った者による適切な	ご指摘事項もふまえ必要に応じ
	調査、予測評価、保全措置を行うこと。	て専門家に助言をいただきつつ調
		査方法、予測評価、保全措置を検
		討いたします。

(2) その他

環境影響評価方法書について提出された意見の概要と事業者の見解

神奈川県川崎市在住T氏

No.	質問・指摘事項等	事業者の見解
38	■意見は要約しないこと	意見書の内容は要約及び並び
	意見書の内容は、貴社側の判断で要約しないこと。要約することで貴社	替えをせず全文を公開いたしま
	の作為が入る恐れがある。事業者見解には、意見書を全文公開すること。	す。また、頂いた意見はそれぞれ
	また同様の理由から、以下に続く意見は「ひとからげ」に回答せず、「それぞれに回答すること」。 さらに本意見書の内容について「順番を並び	に回答いたします。
	本えること も認めない。	
39	■本事業で採用する予定の風力発電機は、カットイン風速以下であって	採用する予定の風力発電機は、
	もブレードは回転するのか?	現在製造メーカーで開発中のため
		詳細仕様が決定しておりません。
40	■本事業で採用する予定の風力発電機は、カットイン風速を任意に変更	採用する予定の風力発電機は、
	できるのか?	現在製造メーカーで開発中のため
		詳細仕様が決定しておりません。
41	■本事業で採用する予定の風力発電機は、弱風時にフェザリング(風力	採用する予定の風力発電機は、
	発電機のブレードを風に対して並行にし回転を止めること)を実行でき	現在製造メーカーで開発中のため
	るのか?	詳細仕様が決定しておりません。
42	■専門家へのヒアリング年月目が記載されていない	ご指摘事項については準備書
	専門家ヒアリングは適切な時期に実施するべきだが、年月目が記載して	において記載いたしいます。
	いなければ適切な時期にヒアリングを実施したのか閲覧者は判断でき	
	ない。よってヒアリング年月日を記載するべきではないのか。	

福島民友新聞社・福島民報新聞社(令和元年11月12日(火))

∹ 七、住民説明会の開催を予定する場所・時間 五、縦覧の場所 四、関係地域の範囲 三、対象事業実施区域 八、問い合わせ先 六、意見書の提出 告いたします。業、環境影響評価方法書」を作成しましたので、次のとおり公業、環境影響評価方法書」を作成しましたので、次のとおり公業、環境影響評価法に基づき、「(仮称)芝山・大黒山風力発電事 事業者の名称 いわき市上三坂公民館 いわき市三和公民館 平田村上北方集会所 い合わせ先」へ郵送ください(当日消印有効) 投函下さるか、令和元年十二月二十五日(水)までに「八、問をご記入のうえ、縦覧場所に備え付けております意見書箱にご お持ちの方は、書面に住所、氏名、ご意見(意見の理由を含む) 環境影響評価方法書について、環境保全の見地からのご意見を 期間令和元年十一月十二日(火)から 電子縦覧 http://www.hitachi-sustainable-energy.co.jp/ 産業振興課、いわき市役所1階、いわき市三和支所福島県生活環境部環境共生課、平田村役場住民課、古殿町役場 対象事業の名称 事業者の所在地 代表者の氏名 (いずれも開庁時のみ) **□殿町上山上ふれあいセンター** □殿町大久田集会センター 今和元年十一月十九日(火)十八時三十分から二十時まで(福島県いわき市三和町下市萱字竹ノ内14-1) 令和元年十一月二十九日(金)十九時から二十時三十分まで 令和元年十一月十六日(土)十八時三十分から二十時まで 令和元年十一月三十日(土)十九時から二十時三十分まで 令和元年十一月二十六日(火)十九時から二十時三十分まで (福島県石川郡平田村北方字左鍬内14-2) (福島県石川郡古殿町大字大久田石神52) (福島県いわき市三和町上三坂字山神前川) (福島県石川郡古殿町山上竹貫田20) 令和元年十二月十一日(水)まで 福島県石川郡平田村、 日立サステナブルエナジー株式会社 福島県石川郡平田村、石川郡古殿町、いわき市 代表取締役 石田 開発グループ 発電設備出力 最大六万八千キロワット 茨城県日立市幸町三丁目2番2号 日立サステナブルエナジー株式会社 茨城県日立市幸町三丁目2番2号 風力発電所設置事業 T31710073 市の行政境界付近 〔仮称〕 芝山・大黒山風力発電事業 お 知らせ (55) 7808石川郡古殿町、いわき

古殿町行政だより(令和元年11月1日発行)

(仮称) 芝山・大黒山風力発電事業環境影響評価方法書の 縦覧・住民意見受付及び説明会のお知らせ

■事業者の名称 日立サステナブルエナジー株式会社

- ■対象事業実施区域 福島県石川郡平田村、石川郡古殿町、いわき市の行政界付近
- ■対象事業の名称 (仮称)芝山・大黒山風力発電事業
- ■縦覧場所 古殿町役場産業振興課
- **三**維管期間

令和元年11月12日(火)~令和元年12月11日(水)午前8時30分~午後5時15分(土・日・祝を除く)

■意見受付

縦覧期間中に縦覧場所に備え付けてある意見書箱に投函、または 令和元年11月12日(火)~令和元年12月25日(水)までに郵送(当日消印有効)

- ■説明会について
- ①大久田行政区説明会 日時…令和元年11月29日(金)午後7時から午後8時まで 場所…大久田集会センター(古殿町大字大久田字石神52)
- ②上山上行政区説明会

日時…令和元年11月30日(土)午後7時から午後8時まで 場所…上山上ふれあいセンター(古殿町大字山上字竹貫田200)

■意見の郵送先及びお問い合わせ先 日立サステナブルエナジー株式会社 開発グループ 〒317-0073茨城県日立市幸町3丁目2番2号

20294-55-7808 (土日祝日を除く、午前9時から午後5時30分まで)

広報ひらた(令和元年11月10日発行)

《境影響評価 に投函、または、 11月16日出 18 12 11月16日出 18 11 (土日祝日を除く、9時~17次城県日立市幸町3丁目2乗 場日説郵に縦 T31 業者の 立見所時明送投覧見時月 田覧近田 四村、古殿町、 受3012期村場付分日間役所 付分日間場場 サステナブル 7 名称 0073 17 5 住 時12 15月 工 分11 1) 日日水 わき 時~17 市 日る 株式会社 分 の行政 (水)意 時 か 30分 ま見 5 で書 に箱

■ 前のべ・

○インターネットによる「お知らせ」

(福島県庁のウェブサイト)

	知事意見	通知日	令和元年8月29日 <u>本文 [PDFファイル/310KB]</u>				
	公告日	令和元年11月12日					
	級覧期間	令和元年11月12日~今	令和元年11月12日~令和元年12月11日 事業者ホームページ <u>http://www.hitachi-sustainable-energy.co.jp/</u>				
	意見書提出期間	令和元年11月12日~今	x和元年12月25日				
方法書	縦覧場所	福島県生活環境部環境	福島県生活環境部環境共生課(県庁西庁舎6階)、いわき市役所1階、いわき市三和支所、平田村役場住民課、古殿町役場産業福興課				
	説明会の開催		平田村上北方集会所(令和元年11月16日午後億時30分〜隊時)、いわき市三和公民館(令和元年11月19日午後6時30分〜隊時)、いわき市上三坂公民館(令和元年11月26日午後7時〜隊時30分)、古殿町大公田集会センター(令和元年11月29日午後7時〜隊時30分)、古殿町大公田集会センター(令和元年11月29日午後7時〜8時30分)				
	意見数						
	福島県環境影響評価審査会	開催日					
	知事意見	通知日					
	公告日						
	紅覧期間						
	意見書提出期間						
		目時					
準備書	説明会の開催	場所					
	意見数						
	公聴会の開催	-					
	福島県環境影響評価審査会	開催日					
	知事意見	通知日					
	公告日						
評価書	縦覧期間						
工事着手の届出							
工事完了の届出							
	公告日						
事後調査報告書	縦覧期間						
対象事業の廃止等							
備考							
	であると認められる地域 DF形式のファイルをご覧いただく場合には、 dobe Readerをお持ちでない方は、パナーの						
⊠このページに関するおお	い合わせ先						
環境共生課 環境影響評 〒960-8670 福島県福島市 Email kyousei@pref.fukusl		1-7927 電子メールでのお問い	출 한비도 5 5から				

福島県庁(県庁へのアクセス) 〒960-8670 福島県福島市杉麦町2-16 Tel:024-521-1111(代表) E-mail: kouho®pref.fukushima.lg.jp 個人情報の表別表現について「リンク 著作権・免責事項などについて」「福島県ホームページについて」 RSS配値について 福島県の広告事業について Coprigit © 2014 Filicabina Prefecture.All Rights Reservet.

(いわき市のウェブサイト)



○インターネットによる「お知らせ」

【電子縦覧・縦覧場所・意見書の提出について】

(日立サステナブルエナジー株式会社 ウェブサイト)





○関係自治体庁舎での縦覧場所の状況



福島県庁生活環境部環境共生課(令和元年11月12日撮影)



いわき市役所1階 (令和元年11月12日撮影)



いわき市三和支所 (令和元年 11 月 12 日撮影)



古殿町役場産業振興課 (令和元年 11 月 12 日撮影)



平田村役場住民課 (令和元年11月12日撮影)

「(仮称)芝山・大黒山風力発電事業環境影響評価方法書」 <u>ご意見記入月1 彩氏</u>

ご氏名
ご住所
環境の保全の見地からのご意見

注1:本用紙の情報は、個人情報保護の観点から適切に取扱います。

2:この用紙に書ききれない場合は、裏面又は同じ大きさ(A4サイズ)の用紙をお使い下さい。